

平成26年度「みえの現場・すこいやんかトーク」(鈴鹿市)の概要

11月18日(火)に「nico*mama café」(ニコ・ママ・カフェ)で「みえの現場・すこいやんかトーク」を開催しました。

当日は、地域における子育て環境の改善に取り組んでいる「特定非営利活動法人 マザーズライフサポーター」の皆さん6名に、活動内容や課題、行政へ期待していることなどについて、ご意見などをお伺いしました。



【参加者からの発言】

代表から「特定非営利活動法人 マザーズライフサポーター」の活動について紹介していただいた後、メンバーの皆さんから、自己紹介していただきました。

(活動紹介)

- 子育て情報誌「nico*mama」(ニコ・ママ)を4,000部程度発行し、鈴鹿市と亀山市を中心に、子どもと一緒にいける場所を掲載している。今は50件程度の店舗などの情報だが、数が増えていくことによって、この町が、どこに行っても子どもと行ける場所になるのではないかと大きな夢を抱きながら頑張っている。
- 鈴鹿市は、転入世帯が多く、親族を頼ることができない母親が多いことから、「nico*mama café」(ニコ・ママ・カフェ)を開設した。このカフェでは、乳幼児を預けている間、母親がお茶を飲んだり、食事をしたり、仮眠をとることができる。
- 地域の一次産業と連携して、母親の短期間・短時間就労「コラボワーク」を支援している。就労時間は昼間の3時間程度、期間は10日程度とし、子育て中の母親10人から15人程度でグループをつくり、労働と託児の役割分担を行った上で、一次

産業の仕事を受注している。

Q. この活動に参画してよかったこと、利用されている方を見てよかったことについてお聞きしたい。

- 自分が子育てをしていたときは、寝不足でイライラしていたので、寝不足の母親を助けたいという思いから、「nico*mama café」に仮眠室をつくることにした。
- 「nico*mama café」の利用者から「ずっと抱っこしてないと泣いてしまう子で、ずっと寝られなかったから、本当にありがとうございます」と言われたときは本当にやっけてよかったと思った。「今、助けてほしい」という、お母さんの悲鳴のような声が聞こえるので、これからも支援していきたい。
- 「nico*mama café」では、母親同士の信頼関係があるため、子ども同士がけんかしても、親は見守りつつ、一緒に解決するという人間関係の経験を積ませることができる。
- 「マザーズライフサポーター」の活動に参加するまでは、3歳児神話に取りつかれ、子どもを預けるという選択肢はなかったが、この活動に参加して、自分の人生を生きていいことに気付いた。親が生き生きとしている方が、子どもにとってもよいと考えるようになった。
- 「マザーズライフサポーター」で、自分の子どもを大切に見てくれる母親同士の友達ができ、本当に助かっている。母親が何でも話せる友達を作って、地域になじむことが大切だと思う。そのために、母親が友達を作るパーティーのようなものを企画してみたい。
- 3人目の妊娠がわかったとき、自分と夫だけで育てられるか不安感があったので、メンバーに相談したが、「おめでとう」ではなく「ありがとう」の言葉が返ってきた。産まれてくる子どもを楽しみに待っていてくれる人達がいることが、本当に嬉しかった。

Q. 今後の飛躍に向けた課題についてお聞きしたい。

- 「nico*mama café」の託児では、子連れの母親にもボランティアで手伝っていただいているが、人数が足りず、シフトを組むのが大変であるため、「マザーズライフサポーター」の活動に関わってくれる人が増えてほしい。
- 「今、助けてほしい」という声に対応するために、地域の高齢者や子育てを卒業した人たちにも、子育て中の母親に目を向けてほしい。高齢者などの先輩にも子育てに関わってもらうようなアプローチを検討していきたい。
- 母親自身が、子どもを預けることに抵抗を持たなくなるようにしたい。託児という選択肢があることを広めていくために、ママ友づくりのような場や仕組みが必要だと考えている。
- 「マザーズライフサポーター」の活動を多くの方に知っていただきたい。また、安心して子どもを預けていただける施設としてアピールするために、公的な場としていきたい。
- 持続可能な活動をするためには、資金不足が課題である。
- 子育て中の母親でも看護師やデザイナーなどのスキルを持っている方は多くいるの

で、「コラボワーク」という助け合いの働き方を進めているが、子育て中の母親に仕事を依頼してくれる一次産業分野の提携先を見付けるのに苦労している。今は、地域に根付くという考え方から一次産業に限っているが、今後は分野を拡大していきたいと考えている。

【知事の発言】

- 子育て支援センターも、子どもと親との関係で利用できる環境を整えるだけでなく、「nico*mama café」のように、親同士の関係も作っていくことで、利用しやすくなるのではないかと感じた。
- 地域の高齢者などの活用については、祖父世代が子育てを行っているNPOなどもあるため、祖父母世代や子育てを卒業して仕事をしていない方たちと現役の母親をサポートしている方たちとのマッチングなど、行政はそのつなぎ役をしっかりとりたい。
- 子育てをしている母親に、気持ちも生き方もきめ細かく寄り添っている取組をしてもらっていると感じ、非常に嬉しく思った。こういう取組をしている母親がいることを父親ももっとよく知っていくことが大事だと改めて感じた。
- 行政ができるサポートのアイデアもいただくことができた。是非これからも皆さんに頑張ってもらい、行政にできることがあればしっかり応援していきたい。



「特定非営利活動法人 マザーズライフサポーター」は、「母親」を支援の中心として位置付け、一人で悩みや不安を抱え込んでいる母親が、自分の子育てに自信を持ち、楽しい子育てが行えるように、子育てに関する情報の提供や乳幼児虐待等の社会問題を予防する場づくり、母親の就労支援等を行い、地域における子育て環境の改善に寄与することを目的に設立された法人です。